

< 講師紹介 >

立教大学 大学院 21世紀社会デザイン研究科 萩原 なつ子 教授

お茶の水女子大学で博士号取得。専門分野は環境社会学、非営利活動論。環境、開発、ジェンダーを軸に研究を行っている。パワフルさとわかりやすいトークで定評のある萩原先生。昨年大好評だった「なつ子流白熱教室」を再び熊本で開講します。男女共同参画や社会に出て働くこと、さらには自分の生き方について考える「ワールドカフェ方式」のワークショップを通して「気づき」と「元気」を持ち帰れること请け合い。認定特定非営利活動法人日本 NPO センター副代表理事。

九州大学 大学院(学府)地球社会統合科学府 瀬口 典子 准教授

ミシガン大学で博士号取得。専門分野は、生物人類学/自然人類学。古人骨を試料とし、頭蓋骨計測値データ、および歯冠計測値データを用いた形質人類学的、および生物考古学的研究を通して人類移動と拡散の歴史研究に従事。米国モンタナ大学と共同研究を実施。科学研究の内容と方法もジェンダーバイアスによる影響を受けるという考えのもと、人種差別、性・ジェンダー差別、アイヌ民族問題にも取り組む。応用生理人類学研究センター共同研究員。

熊本大学 法学部 鈴木 桂樹 教授

アベノミクスの成長戦略の中核に「女性の活躍促進」が位置づけられ、推進体制が整いつつあるが、今、求められているのはどんな「男女共同参画社会」なのか？女性の活躍推進、ワーク・ライフ・バランスの取組みは福利厚生の問題ではない、と鈴木先生。福井市生まれ、大阪育ち、広島と名古屋で学び熊大に赴任。専門は政治学で、総務省 熊本行政評価事務所 行政苦情救済推進会議座長、熊本県 男女共同参画審議会会長、熊本市 男女共同参画会議会長など歴任するほか、TV/ラジオ/新聞等メディアでも幅広く活躍中。

熊本県立大学 環境共生学部 居住環境学科 西 英子 准教授

奈良女子大学で博士号取得。専門分野は住宅政策、まちづくり、地域コミュニティ計画。熊本市男女共同参画センター「ウイメンズカレッジ」では、「幸福度が高く社会福祉が充実」していることで知られるデンマークにおける女性の社会進出と子育て環境についてレクチャー。「日本の建築や都市空間は、子どもや高齢者、障がい者の立場に立っているとは言い難い。女性の立場で研究し発言する機会はこれからますます重要で、日頃から、年齢・性別に関わらず、活発な議論ができる場を持つように心掛けて欲しい。」と語る。

宮崎公立大学 花野 泰子 非常勤講師

東京の番組制作会社テレビマンユニオンに25年間所属。プロデューサーやディレクターとして、海外ファッション情報番組や海外紀行ドキュメンタリー、女性向けの情報番組やカルチャー番組を担当。2009年に第一子出産後、東京女子大学大学院人間科学研究科博士後期課程に入学し、メディアとジェンダーの研究を本格的にスタート。2年前に家族の都合で熊本市に転居。県内外の大学や専門学校で講師を務める傍ら、スペシャリスト女性たちの団体ジェンヌ Kumamoto を設立し副代表に。2015年度からは、熊本市男女共同参画会議審議員にも就任。現在は、熊本独特のジェンダー規範に興味があり、新たな研究をスタートしようと企て中。

熊本大学 教育学部 八幡(谷口) 彩子 教授

お茶の水女子大学で博士号取得。現在、熊大の男女共同参画コーディネーターでもある八幡先生は、熊大の女性教員として初めての育児休業を取得。仕事と家庭のみならずPTAや子供会を含む地域活動まで両立し、次世代育成支援行動計画立案などにも尽力。男女共同参画や仕事と家庭生活のバランスについて基本的なことを学ぶのはもちろん、まだ将来を具体的に思い描くことができない学生にとって、どんな問題が起こり得るのか、どのように仕事に関わっていくのかをシミュレーションできる内容の講義。

熊本大学 政策創造研究教育センター 河村 洋子 准教授

アラバマ大学バーミングハム校公衆衛生大学院で博士号取得。専門はヘルスコミュニケーション。いかに健康的な行動を促すかを研究する実践的な領域で、地域の人と協働で、若い世代の人たちが地域社会に参加する仕掛けづくりに取り組む。「エンターテイメント・エデュケーション」という物語と教育を融合して、知らず知らずのうちに学習を促す方法を用い「ラジオドラマ」を制作する等、日本ではまだ新しい概念「Positive Deviance」と組み合わせて精力的に活躍中。キャラクター「ロボリーマン週三郎」の生みの親でもある。熊大男女共同参画コーディネーター。

